

リサイクル♥リユース♥チャリティー

WE21 ジャパンいずみ 1.2.3

2018. 夏



家庭の廃油から エネルギーを生む

いずみWEショップの3店舗が
回収ステーションになっている
廃油のリサイクルの過程を学ぼうと、
墨田区の(株)ユーズに伺いました。



▲廃油の回収

町工場の多い墨田区は、隅田川の洪水や関東大震災、東京大空襲で火の海となり、多くの人々の命が奪われた地域です。

(株)ユーズは戦後の1958年に設立。捨てられた家庭廃油のリサイクルに取り組み、35年後の1993年には日本で初めて廃油からディーゼル燃料化に成功しました。回収された廃油は燃料の他に飼料、肥料、石けんなどに再生されています。

「TOKYO 油田」は3代目の染谷ゆみさんのもと、4年前に地域で集いあえる拠点として「油田カフェ」をオープン。チャリティショップ「WEショップすみだ」を併設し、東日本震災後には精製した燃料や花を被災地に運びました。それは同時に、避難所の人たちに希望を届けることになりました。

廃油から生まれた電力で野菜作り

福島原発事故後に、廃油から電力ができないものかと試行錯誤し、企業と連携して発電機を開発。電力会社の(株)TOKYO油電力を設立しました。また、畑のない墨田区での野菜作りとして、企業と連携して水耕栽培で野菜を作り、その野菜を使ってケーキやクッキーを作り、カフェで販売しています。



▲中田店の太陽光パネル



▲ポンプ式石鹸

拠点となっている「油田カフェ」や「WEショップすみだ」、水耕栽培の電気は、もちろんTOKYO油田力です。

次世代のエネルギーを考える

この春から、WEショップ中田店と萩丸店はTOKYO油田力の電気に切り替えました。また、店内ではポンプ式石鹸を販売しています。さらに中田店では太陽光パネルで発電されたエネルギーでラジオを聞かれています。

原発事故から、エネルギーの地産地消が望ましい形であると言われています。横浜市は行政による廃油回収がないため、廃油を廃棄している人も多くはまずです。廃油も資源になることを地域で語り、次世代のエネルギーのあり方を考える人を増やしていきたいと思っています。

